

離乳指導の枠組みに関する研究

ー保健センターならびに保育所における離乳指導に関する研究ー

母子保健研究部 堤 ちはる・高野陽

嘱託研究員 三橋扶佐子 (日本歯科大学共同利用研究センター)

要約：新たな時代に対応した授乳・離乳のガイドライン策定の基礎的資料を得ることを目的に、離乳指導に関する調査を、栄養士配置の市区町村保健センターと保育所を対象に実施した (有効回答票：保健センター640票、保育所446票)。

その結果、保健センターでは、離乳集団指導は乳幼児健診と合わせての実施は少なく、乳幼児健診とは別に実施が多かった。離乳食講座に調理実習が含まれるものは全体の約1/3であった。離乳個別指導の実施率は高く、乳幼児健診および離乳集団指導時、電話相談の機会や個別相談日を設けて実施されていた。保護者からの離乳相談への回答者は、保育士が栄養士よりも多く、他職種と連携を密にとる必要性が示唆される。保育所の離乳開始の目安の月齢は5か月69.6%、6か月15.2%、4か月7.1%であった。保育所の離乳食献立は、栄養基準に基づき保育所で作成28.9%、基準はないが、経験に基づき保育所で作成26.0%、市区町村で作成されたものを使用21.1%、1~2歳、3~5歳児食の取り分け17.9%であった。0歳児数が少ないほど、1~2歳、3~5歳児食の取り分けが多かった。食物アレルギー児に除去食の対応をしている保育所は93.3%であった。対応の判断基準は医師の診断書・証明書75.6%、保護者の要望30.0%、医師の判断(書類なし)13.5%であった。0歳児数が少ないほど、医師の診断書・証明書が少なかった。食物アレルギー児の離乳食への対応は、栄養量までは配慮できないが対応51.2%、栄養量まで考えて対応27.8%であり、0歳児数により対応方法については有意な差があった。改訂「離乳の基本」に基づき離乳指導をしているのは、保健センター97.0%、保育所63.7%であり、<付表>離乳食の進め方の目安を利用しているのは、保健センター88.2%、保育所74.1%であった。「食べる量にムラがある」「食べる量が少ない」原因は、「食べる時間が定まらない」などの生活リズムの乱れに起因すると推察される。

離乳指導は、単なる離乳の進め方や離乳食の調理指導に終わらせてはならない。食育の視点を踏まえ、乳汁以外の食物を初めて味わう乳児が、食べる楽しみと食事のおいしさを感じとれる働きかけが必要である。そのためには、子どもの養育者自らの取り組みは勿論のこと、栄養士、保育士、さらには医療スタッフが連携して、離乳期以降も長期的な食育支援を行うことが重要である。

キーワード：離乳、離乳食、栄養士、保健センター、保育所

Study on the Weaning Guidance Framework Weaning Guidance at Health Centers and Nursery Schools

Chiharu TSUTSUMI, Akira TAKANO, Fusako MITSUHASHI

Abstract : The objective of this study was to obtain basic material to work out a guideline for breast-feeding and weaning. A survey on weaning guidance was conducted at health centers and nurseries which have dietitians as part of their personnel. (Valid responses: 640 health centers, 446 nurseries.)

At health centers, group guidance on weaning was conducted separately from infant health checkups. One-third of weaning courses included cooking instructions. Individual training was done very frequently. More nurseries' instructors attended to consultations on weaning for mothers/guardians than the dietitians did. Dietitians must work more in collaboration with instructors. At nursery schools, 69.6% of infants' weaning began at 5 months of age, 15.2% at 6 months, 7.1% at 4 months. Concerning infant formula menus, 28.9% of nurseries planned the menus based on their own nutrition standards; 26.0% did not have standards, but planned based on experience; 21.1% used menus prepared by the city/town/ward offices; 17.9% set apart food from meals of 1-2 year-old and 3-5 year-old infants. 93.3% of nurseries provided non-allergy food. Most nurseries based their non-allergy food feeding on doctors' diagnosis. Concerning provision of infant formulas for infants with food allergy, 51.2% of nurseries were not able to take all nutrition amounts into consideration; 27.8% were. More health centers (97.0%) than nurseries (63.7%) used "The Basics of Weaning, Revised Edition" for their weaning guidance. They both use the "weaning standards chart" with frequency. Irregular or low amount of intake may be due to irregular feeding time.

Weaning guidance cannot be limited to a training program or menu-planning. With food/diet education in mind, one must provide opportunities for the infant, who must take something other than milk for the first time in his/her life, to feel the fun of eating and the tastiness of food. After the weaning period, food/diet education must continue with a long-term vision, supported by not only the parents but also by dietitians, nursery school instructors, and medical staff.

Keyword : Weaning, infant formula, dietitian, health center, nursery

I. 研究目的

現在、離乳の指導は市町村保健センター、医療機関、保育所などにおいて、1995年、当時の厚生省から発表された改定「離乳の基本」を目安に行っているところが多い。しかし、改定「離乳の基本」は発表されてから、10年以上が経過し、母子をとりまく社会環境や食環境が発表当時とは大きく変化している。また、それに伴い、離乳期の子どもの養育者の健康や食生活に対する考え方、意識、調理の知識・技術なども以前とは変容していることが推察され、離乳期の子どもとその養育者の現状を踏まえた離乳の指導が求められている。このような状況において、厚生労働省では、授乳や離乳の進め方の目安を示す「授乳・離乳の支援ガイド」の作成が予定されている。

そこで、本研究においては、市町村保健センター、ならびに保育所の離乳指導担当者に対して、離乳指導に関する調査を実施し、その結果から「授乳・離乳の支援ガイド」作成に寄与する基礎的資料を得ることを目的とした。

II. 研究方法

1. 調査方法および内容

調査対象施設は、全国の市区町村保健センター、および保育所とした。保健センターは、平成16年度版全国市町村保健センター要覧¹⁾から、常勤栄養士（管理栄養士を含む、以下同じ）の配置されている966か所を抽出した。保育所は、財団法人子ども未来財団のホームページから、0歳児保育を行い、栄養士の配置されている認可保育所を、東北地方、北陸地方、関東地方、中部地方、関西地方、中国地方、四国地方、九州地方の9地方から、青森県、福井県、長野県、茨城県、神奈川県、兵庫県、広島県、愛媛県、福岡県下の1072か所を抽出した。

調査票は、保健センター用と保育所用に2種類を作成した。保健センターに限定した調査項目は、離乳指導の方法、および離乳指導の対象者についてなどであり、保育所に限定した調査項目は、保育所給食提供の状況、離乳の開始、進め方、離乳食の栄養基準・献立・調理についてなどである。保健センターと保育所に共通の調査内容は、離乳期の子どもの保護者からの相談と質問、改訂「離乳の基本」についてなどである。調査は郵送法を用い、平成17年12月に実施した。

結果は保健センターと保育所を別々に集計した。統計解析にはSPSS (Ver.13.0)を用いた。保育所の結果は、0歳児の受け入れ人数別（1～5人、6～10人、11人以上）にクロス集計を行った。群間比較には χ^2 検定を行い、有意水準は5%とした。

2. 倫理的配慮

調査依頼の文書にて研究の趣旨を提示し、調査への協

力は任意、無記名であること、統計的に回答を処理し、対象者に不利益を被らないことを説明した。データは研究目的以外に使用しないことを調査依頼文書に示し、質問紙の回答をもって承諾を得たものとした。

III. 研究結果

1. 保健センター

1-1. 調査実施地域、回収率、回答者の属性

保健センターの調査票配布数は966票、回収数は640票、回収率は66.3%であり、すべて有効票であった。回答者は、女性が98.7%であった（表1-1）。回答者の年齢は多い順に、30歳代35.1%、40歳代24.0%、50歳代20.2%、20歳代20.0%であった（表1-2）。回答者の職業は、多い順に栄養士88.2%、保健師11.2%であり、医師、助産師、看護師、事務職の回答は少なく各0.2%であった（表1-3）。

1-2. 離乳食指導の方法

保健センターの離乳食講習会（集団指導）の方法は、多い順に「乳幼児健康診査（健診）とは別に実施している」57.7%、「乳幼児健診と合わせて実施している」18.4%、「乳幼児健診と別に実施、また合わせても実施している」17.3%、「実施していない」6.6%であった（表1-4）。

離乳食講習会（集団指導）の実施形態については、多い順に「講義、離乳食作りの実習、試食」33.9%、「講義、試食（離乳食作りの実習なし、見学なし）」33.3%、「講義、離乳食作りの見学、試食（参加者の離乳食作りの実習なし）」27.7%、「講義のみ」13.1%であった（表1-5）。

離乳食の個別相談、指導について、「実施している」は97.2%であった（表1-6）。

離乳食個別相談、指導を実施する機会は、多い順に「乳幼児健診」83.1%、「電話相談」79.8%、「離乳食講習会（集団指導）」72.2%、「個別相談日が設定されている」41.7%、「特に決まっていない」9.1%であった（表1-7）。

離乳食の個別相談、指導の対象者は、多い順に「乳幼児健診の参加者」77.5%、「離乳指導の必要性の認められる人」70.3%、「希望者のみ」61.9%であった（表1-8）。

1-3. 離乳期の子どもの保護者からの相談や質問

1-3-1. 離乳開始時期

離乳開始時期についての質問や相談は、多い順に「離乳の開始時期がわからない」56.6%、「離乳開始時期が遅すぎた」6.0%であった。「離乳開始時期が早すぎた」は少なく、1.9%であった。一方、「離乳開始時期についての質問や相談は特になし」も29.5%みられた（表1-9）。

1-3-2. 離乳食の食べ方

離乳食の食べ方についての質問や相談は、多い順に「食べる量が少ない」37.0%、「食べる量にムラがある」23.3%、

「食べるのを嫌がる」13.8%、「食べる種類が偏っている」12.0%であり、「食べる量が多い」は少なく5.8%であった(表1-10)。

1-3-3. 離乳食を食べる時間、時刻

離乳食を食べる時間、時刻についての質問や相談は、多い順に「食べるのに時間がかかる」35.6%、「食べる時間帯が定まらない」31.1%であり、「食べさせる時刻が遅くなりがち」は6.0%と少なかった。一方、「離乳食を食べる時間、時刻についての質問や相談は特になし」も20.9%みられた(表1-11)。

1-3-4. 離乳食全般

子どもの離乳食全般についての質問や相談は、多い順に「食べる適量がわからない」45.9%、「離乳の進め方がわからない」38.2%、「離乳食の作り方がわからない」6.7%、「食べさせてよいものがわからない」4.5%であった(表1-12)。

1-3-5. 離乳食について保護者の思い

離乳指導者が感じる保護者の離乳食についての思いは、多い順に「離乳食作りが苦痛・面倒」30.7%、「離乳食献立を考えるのが苦痛・面倒」21.6%、「アレルギーについて心配」13.8%、「育児書のようにはいかない」10.3%、「離乳食を食べさせるのは楽しい」6.7%であった(表1-13)。

1-4. 改訂「離乳の基本」について

改訂「離乳の基本」に基づいて離乳指導をしているのは、97.0%であった(表1-14)。

改訂「離乳の基本」の<付表>“離乳食の進め方の目安”の利用状況について、「利用している」のは88.2%であった(表1-15)。

改訂「離乳の基本」の<付表>“離乳食の進め方の目安”の利用上、「不便は感じない」46.8%、「不便を感じる」39.4%、「利用しないのでわからない」5.3%であった(表1-16)。

改訂「離乳の基本」の<付表>“離乳食の進め方の目安”の利用上、不便な点は、多い順に「具体的な食品を多く示してほしい」43.9%、「アレルギーについて詳しく示してほしい」41.6%、「食品の開始時期を詳しく知りたい(例えば卵など)」37.2%、「調理形態について細かく示してほしい」33.3%、「除去食について詳しく示してほしい」18.0%であった(表1-17)。

2. 保育所の結果

2-1. 調査実施地域、回収率、回答者の属性

保育所の調査票配布数は1072票、回収数は475票、回収率は44.3%であった。そのうち、栄養士の配置されていない保育所からの29票は除き、有効票は446票

(93.9%)とした。回答者は女性が99.3%であった(表2-1)。回答者の年齢は多い順に、20歳代40.8%、30歳代20.3%、40歳代20.0%、50歳代16.2%であり、保育所は保健センターに比べ、回答者に20歳代が多かった(表2-2、表1-2)。回答者の職業は、多い順に栄養士75.9%、園長8.2%、主任保育士4.7%、保育士4.4%であり、調理師、調理員・調理技師などその他の職種は少なく各3%以下であった(表2-3)。

2-2. 設置主体、入所児数、0歳児の受入状況

設置主体は、多い順に社会福祉法人77.6%、公立19.3%、その他の法人2.7%、個人0.5%であった(表2-4)。

保育所全体の入所児数は、多い順に「140人以上」30.4%、「120~139人」18.0%、「60~79人」16.0%、「80~99人」15.3%、「100~119人」15.1%であった(表2-5)。

0歳児の受入時期は、多い順に「2~4か月未満」48.6%、「4~6か月未満」19.1%、「6~8か月未満」17.3%、「2か月未満」13.8%であった(表2-6)。

0歳児の受入人数は、多い順に「11人以上」49.2%、「6~10人」34.9%、「1~5人」15.9%であった(表2-7)。

2-3. 職員の配置

食事づくりに関与する職員の配置は、多い順に「常勤栄養士」89.7%、「常勤調理師」55.4%、「非常勤調理員・調理技師」35.7%、「常勤調理員・調理技師」27.6%、「非常勤調理師」20.6%、「非常勤栄養士」13.7%であった(表2-8)。

2-4. 食事の提供状況

離乳食を除く食事の提供は、多い順に「保育所で作る完全給食」78.7%、「外部委託による完全給食」39.2%、「外部委託であるが、間食は保育所で作る」3.4%であった(表2-9)。

離乳食の提供は、多い順に「自園で作る完全給食」96.2%、「外部委託による完全給食」3.4%であった(表2-10)。

離乳食を提供している園児数は、最も少ない園で1人、最も多い園は32人であり、平均すると5.8人であった(表2-11)。

2-5. 離乳食相談への主な回答者

保護者からの離乳食相談への主な回答者は、多い順に「保育士」64.3%、「自保育所の栄養士」56.5%、「園長」12.1%、「調理師」8.1%、「看護師」4.9%、「行政の栄養士」2.6%、「非常勤の栄養士」1.8%、「調理員・調理技師」1.6%であった(表2-12)。

2-6. 牛乳、フォローアップミルクの使用

牛乳の使用開始時期は、多い順に「12～16 か月」86.0%、「9～11 か月」6.2%であり、9 か月未満は1%以下であった。また、「使用していない」は6.2%であった(表2-13)。

フォローアップミルクの使用状況は、多い順に「使用している」53.6%、「使用していない」35.8%、「特に決めていない」10.6%であった(表2-14)。0歳児数「1～5人」の保育所は、フォローアップミルクを「使用していない」、「特に決めていない」の割合が「6～10人」「11人以上」よりも多く、0歳児数によりフォローアップミルクの使用状況については有意な差があった(表2-35)。

2-7. 離乳開始、進め方

離乳開始時期を「決めている」のは47.5%、「決めていない」は17.7%であり、「入所前に開始している」は17.0%であった(表2-15)。0歳児数との関係を見ると、「決めている」のは、「1～5人」のところに少なく、0歳児数の増加に伴ってその割合は増加した。0歳児数により離乳開始時期を「決めている」については有意な差があった(表2-36)。「入所前に開始している」のは、「11人以上」は「1～5人」、「6～10人」に比べて少なく、0歳児数により「入所前に開始している」については有意な差があった(表2-37)。

離乳開始の目安は、多い順に「月齢」68.6%、「体重などの発育状況」47.8%、「保護者からの要望」46.2%、「食べ物を欲しがるようになった」42.6%、「保育士の判断」39.9%、「栄養士の判断」20.0%であった(表2-16)。0歳児数「1～5人」の保育所は、「食べ物を欲しがるようになった」の割合が、「6～10人」「11人以上」よりも多く、0歳児数により「食べ物を欲しがるようになった」については有意な差があった(表2-38)。「6～10人」の保育所は、「保護者からの要望」の割合が、「1～5人」、「11人以上」よりも少なく、0歳児数により「保護者からの要望」については有意な差があった(表2-39)。一方、「6～10人」の保育所は、「栄養士の判断」の割合が、「1～5人」、「11人以上」よりも多く、0歳児数により「保護者からの要望」については有意な差があった(表2-40)。0歳児数の増加に伴い「離乳期の子どもはいない」割合は減少した。0歳児数により「離乳期の子どもはいない」については有意な差があった(表2-41)。

離乳開始の目安にしている月齢は、多い順に「5か月」69.6%、「6か月」15.2%、「4か月」7.1%、「7か月」2.4%、「3か月」2.0%であり、その他の月齢は1.0%以下であった(表2-17)。

離乳の進め方の目安とする項目は、多い順に「月齢」83.6%、「咀嚼・嚥下の状態」77.4%、「食欲」55.3%、「保育士の判断」54.0%、「体重などの発育状況」53.4%、「保護者からの要望」39.7%、「栄養士の判断」30.5%であった(表2-18)。0歳児数が「1～5人」の保育所は、

「月齢」の割合が、「6～10人」「11人以上」よりも少なかった。0歳児数により「月齢」については有意な差があった(表2-42)。0歳児数が「6～10人」は、「保育所嘱託医の指示」が「1～5人」「11人以上」より多かった。0歳児数により「保育所嘱託医の指示」については有意な差があった(表2-43)。0歳児数「1～5人」の保育所は、「栄養士の判断」の割合が、「6～10人」「11人以上」よりも少なかった。0歳児数により「栄養士の判断」については有意な差があった(表2-44)。0歳児数の増加に伴い「離乳期の子どもはいない」割合は減少し、0歳児数により「離乳期の子どもはいない」については有意な差があった(表2-45)。

2-8. 離乳期の区分

離乳期の区分は、多い順に「3区分」49.7%、「4区分」24.6%、「区分なし」4.2%、「1か月単位」3.5%であった。それ以外の区分を行っている「その他」は16.2%であった(表2-19)。0歳児数「1～5人」の保育所は、「区分なし」の割合が、「6～10人」「11人以上」よりも多かった。0歳児数により「区分なし」については有意な差があった(表2-46)。

2-9. 幼児食移行月齢

離乳食から幼児食への移行月齢は、多い順に「12か月」40.2%、「15か月」23.1%、「13か月」15.7%、「14か月」5.5%、「16か月」「18か月」各5.0%、「11か月」3.3%であった(表2-20)。

2-10. 離乳食の献立、調理

離乳食の献立については、多い順に「栄養基準に基づいて自保育所で献立を作成」28.9%、「基準はないが、経験に基づいて自保育所で献立を作成」26.0%、「市区町村で作成されたものを使用」21.1%、「1～2歳、3～5歳児食を適宜取り分ける」17.9%、「特に献立表はない」6.7%、「他の保育所との共同献立」2.2%であった(表2-21)。0歳児数「1～5人」の保育所は、「市区町村で作成されたものを使用」の割合が、「6～10人」「11人以上」よりも少なかった。0歳児数により「市区町村で作成されたものを使用」については有意な差があった(表2-47)。「1～2歳、3～5歳児食を適宜取り分ける」のは、0歳児が「1～5人」のところに多く、0歳児数の増加に伴ってその割合は減少した。0歳児数により「1～2歳、3～5歳児食を適宜取り分ける」については有意な差があった(表2-48)。

離乳食の調理については、多い順に「離乳食専用に調理」70.9%、「1～2歳、3～5歳児食から一部転用」58.1%、「ほとんど1～2歳、3～5歳児食を利用」15.7%、「市販のベビーフードをたまに利用」6.1%であった。市販のベビーフードを週に1～2回以上利用している保育所は0.7%以下であった(表2-22)。「離乳食専用に調理」は、

0歳児が「1～5人」のところは少なく、0歳児数の増加に伴ってその割合は増加した。0歳児数により「離乳食専用に調理」については有意な差があった(表2-49)。「ほとんど1～2歳、3～5歳児食を利用」は、0歳児が「1～5人」のところは多く、0歳児数の増加に伴ってその割合は減少した。0歳児数により「ほとんど1～2歳、3～5歳児食を利用」については有意な差があった(表2-50)。

2-11. 離乳期の子どもの保護者からの相談や質問

2-11-1. 離乳開始時期

離乳開始時期についての質問や相談は、多い順に「離乳の開始時期がわからない」50.9%、「離乳開始時期が遅すぎた」6.6%であり、保健センターとほぼ同様の傾向がみられた。「離乳開始時期についての質問や相談は特になし」は36.5%であり、保健センターの29.5%に対してやや多かった(表2-23、表1-9)。

2-11-2. 離乳食の食べ方

離乳食の食べ方についての質問や相談は、多い順に「食べる量にムラがある」22.8%、「食べる量が少ない」20.5%、「食べる種類が偏っている」16.3%、「食べるのを嫌がる」12.3%であった。保育所は保健センターに比べて、「食べる量が少ない」は約半数と少ないが、他の項目は保健センターとほぼ同様の傾向がみられた(表2-24、表1-10)。

2-11-3. 離乳食を食べる時間、時刻

離乳食を食べる時間、時刻についての質問や相談は、多い順に「食べるのに時間がかかる」30.2%、「食べさせる時刻が遅くなりがち」14.6%、「食べる時間帯が定まらない」10.3%であった。保育所は保健センターに比べて、「食べさせる時刻が遅くなりがち」は約2.4倍多かった。また、保育所は「離乳食を食べる時間、時刻についての質問や相談は特になし」が41.0%であり、保健センターに比べて約2倍多かった。一方、「食べる時間帯が定まらない」は、保育所より保健センターが約3倍多かった。(表2-25、表1-11)。

2-11-4. 離乳食全般

子どもの離乳食全般についての質問や相談は、多い順に「離乳の進め方がわからない」34.4%、「食べる適量がわからない」30.0%、「離乳食の作り方がわからない」12.3%、「食べさせてよいものがわからない」7.0%であった。保育所は保健センターに比べて、「離乳食の作り方がわからない」「食べさせてよいものがわからない」「乳汁と離乳食のバランスがわからない」は、1.6～2.6倍多かった。また、「わからないことは特になし」は9.8%であり、保育所は保健センターより約16倍多かった。一方、「食べる適量がわからない」は、保育所より保健センターが約1.5倍多かった(表2-26、表1-12)。

2-11-5. 離乳食について保護者の思い

離乳指導者が感じる保護者の離乳食についての思いは、多い順に「離乳食を作る時間がない」24.4%、「離乳食作りが苦痛・面倒」21.5%、「市販のベビーフードがあつて助かっている」14.2%、「離乳食献立を考えるのが苦痛・面倒」11.9%、「アレルギーについて心配」11.6%であり、保育所は保健センターに比べて、「離乳食を作る時間がない」は約6.8倍、「市販のベビーフードがあつて助かっている」は約4.6倍多かった。一方、「離乳食作りが苦痛・面倒」は、保育所より保健センターが約1.9倍、「離乳食作りが苦痛・面倒」は約1.4倍多かった(表2-27、表1-13)。

2-12. 改訂「離乳の基本」について

改訂「離乳の基本」に基づいて離乳指導をしているのは63.7%であり、この割合は、保健センターの方が約1.5倍多かった(表2-28、表1-14)。改訂「離乳の基本」に基づいて離乳指導をしているのは、0歳児が「1～5人」のところは少なく、0歳児数の増加に伴ってその割合は増加した。0歳児数により、改訂「離乳の基本」に基づいて離乳指導をしている割合については有意な差があった(表2-51)。

改訂「離乳の基本」の<付表>“離乳食の進め方の目安”の利用状況について、「利用している」は74.1%であり、保育所より保健センターの利用が約1.2倍多かった(表2-29、表1-15)。

改訂「離乳の基本」の<付表>“離乳食の進め方の目安”の利用上、「不便は感じない」は54.0%、「不便を感じる」は20.1%、「利用しないのでわからない」は20.6%であり、「利用しないのでわからない」は、保育所が保健センターより約4倍多かった。一方、「不便を感じる」は保健センターが保育所の約2倍多かった(表2-30、表1-16)。

改訂「離乳の基本」の<付表>“離乳食の進め方の目安”の利用上不便な点は、多い順に「具体的な食品を多く示してほしい」41.9%、「アレルギーについて詳しく示してほしい」32.7%、「食品の開始時期を詳しく知りたい(例えば卵など)」26.9%、「除去食について詳しく示してほしい」23.5%、「調理形態について細かく示してほしい」19.1%であった。「除去食について詳しく示してほしい」は、保育所が保健センターより約1.3倍多かった。一方、「調理形態について細かく示してほしい」、「食品の開始時期を詳しく知りたい(例えば卵など)」、「アレルギーについて詳しく示してほしい」は、保健センターが保育所より、それぞれ約1.7倍、1.4倍、1.3倍多かった(表2-31、表1-17)。

2-13. 食物アレルギーの子どもへの対応

食物アレルギーの子どもへ除去食など「対応している」は93.3%であり、「対応していない」は0.4%と少なかった。

た。「該当する子どもがいない」は4.0%であった(表2-32)。0歳児数により食物アレルギーの子どもへの対応については有意な差があった(表2-52)。

食物アレルギーの子どもへ除去食などの対応している場合、その判断基準は、多い順に「医師の診断書・証明書」75.6%、「保護者の要望」30.0%、「医師の判断(書類なし)」13.5%であった(表2-33)。0歳児数との関係をみると、「医師の診断書・証明書」は、「1~5人」の保育所に少なく、0歳児数の増加に伴ってその割合は有意に増加した。0歳児数により「医師の診断書・証明書」については有意な差があった(表2-53)。

食物アレルギーの子どもの離乳食への対応は、多い順に「ほとんど対応しているが栄養量まで配慮できない」51.2%、「栄養量まで考えてほとんど対応している」27.8%、「できる時に対応している」4.3%であった(表2-34)。0歳児数との関係をみると、「栄養量まで考えてほとんど対応している」は、「1~5人」の保育所に少なく、0歳児数の増加に伴ってその割合は増加した。0歳児数により「栄養量まで考えてほとんど対応している」については有意な差があった(表2-54)。

IV. 考察

1. 保健センターにおける離乳指導

通常、保育所の離乳指導は、通所児の保護者を対象とすることが多い。一方、市町村の保健センターにおける離乳指導は、広く地域住民を対象としているために、離乳指導は多くの人を受けやすいように指導の機会を設定し、実施することが望ましい。本研究結果では、離乳の集団指導を「乳幼児健診と合わせて実施している」、あるいは「乳幼児健診と合わせて実施している」と「乳幼児健診とは別に実施している」の両方を組み合わせて実施しているところは、いずれも「乳幼児健診とは別に実施している」ところに比べて、約1/3と少なかった。わが国の乳幼児健診(健診)は、極めて受診率が高いことが明らかにされている²⁾。近年、有職の母親も増加していることも考え合わせると、健診と合わせて離乳指導を実施すると、母親は離乳指導を受けやすくなると思われる。また、健診には、医師、歯科医師、保健師、看護師など多職種が関与していることから、健診と同じ日に離乳指導を行えば、離乳指導の途中で医師などの助言が欲しい状況が発生した場合などにも、迅速に対応できるものと考えられる。これらのことから、保健センターにおける離乳集団指導は、健診とは別に実施するものに加え、可能な限り健診と合わせて実施する機会を増やすことが、子育て支援サービスの一環として重要であると考えられる。

栄養指導には、集団指導と個別相談、指導があり、それぞれの指導方法には一長一短があり、両者がそれを補う形で実施されることが望ましい。例えば、集団指導の場合の短所には、受講者間で食生活に対する意識・知識

の差が大きく、講習レベルの設定に苦労したり、講習中、受講者の興味・関心の維持が困難であるといわれている³⁾。一方、個別相談、指導は個人のニーズに合わせて行えるために、集団指導の欠点を補う形で行われている。本研究においては、集団指導、個別相談、指導の両者共に90%以上の高い割合で実施されており、保健センターは住民のニーズに応えた母子保健サービスの提供に努めている姿勢がうかがわれる。しかし、実施されている集団指導、あるいは個別相談、指導は、それぞれどの程度、住民に周知され利用されているか、また、その指導、相談内容に対する受講者、相談者の満足度については本研究結果では明らかにできなかった。今後は、離乳指導を受ける者の利用状況や満足度についても明らかにし、その結果を離乳指導に活かすことが、母子保健サービスの向上につながると考える。

2. 離乳指導における調理実習の位置づけ

離乳期の子どもへの保護者からの質問や相談は、保健センター、ならびに保育所の結果共に、「離乳の開始時期がわからない」、「食べる適量がわからない」、「離乳の進め方がわからない」などの離乳に関する基礎的なものが多く寄せられていた。また、「離乳食作りが苦痛・面倒」、「離乳食献立を考えるのが苦痛・面倒」も両者に共通して多くみられ、離乳食作りを負担に感じる者が多いことが明らかにされた。離乳期の子どもへの母親への離乳に関する先行研究結果においても、本研究結果と同様の項目が問題点としてあげられていたことから⁴⁾、離乳期の子どもへの母親の悩みとして離乳指導担当者が感じることも、離乳期の子どもへの母親の悩みはほぼ同様であり、離乳指導や保育の現場においては、離乳期の子どもへの母親のかかえる問題点が的確に把握されていることが示された。上記項目からは、母親は離乳に関する基礎的な知識の欠如のみならず、普段、あまり調理をしないことから、離乳食調理に必要な栄養、食品の実践的な知識や調理技術の不足が推察されるために、調理実習を含めた指導が必要であると考えられる。

しかし、本調査結果では、保健センターにおける離乳講習会(集団指導)の実施形態は、「講義、離乳食調理実習、試食」は全体の約1/3であり、「講義、離乳食作り見学、試食」、「講義、試食」、あるいは「講義」だけのところも多かったことから、今後の離乳指導は調理実習を積極的に取り入れていくことが必要であると考えられる。なお、普段から料理作りに関心のない人や料理が好きではない人は、調理の基礎知識、技術を身に付ける機会を、自ら求めて料理講習会などを受講することは極めてまれである。しかし、この離乳指導の調理実習には、「子どものため」に母親は最大限の努力をして参加することが多い。この調理実習を、調理に親しむ好機ととらえ、基本的な調理技術や栄養の知識を身につけ、適切な食習慣が構築できるような指導をすることが望まれる。また、母

親が調理好きになれば、子どもにも調理や栄養への関心も芽生えやすく、それは食育の観点からも好ましいと思われる。

3. 保育所の離乳開始時期

離乳開始時期について、西村ら⁵⁾は1979年の調査で、4か月46%、3か月24%、5か月21%、6か月6%と報告している。一方、2005年の土取ら⁶⁾の報告では、離乳開始は6.4±1.9か月と遅くなっていた。2005年の調査⁴⁾においても、4か月9.6%、5か月47.5%、6か月23.9%が始めており、近年の報告では、離乳開始時期は遅くなる傾向がみられた。これは、2003年に出されたWHOの報告書⁷⁾の中で、6か月までの母乳栄養と、6か月からの離乳の開始が推奨されていることなどを受けて、わが国においても離乳指導にあたる専門職が6か月からの離乳開始を指導していることも影響していると推察される。しかし、WHOの報告書は発展途上国を含めた内容であり、必ずしもわが国の現状に合致していないことも考えられる。

本研究において、保育所で離乳開始の目安にしている月齢は、5か月69.6%、6か月15.2%、4か月7.1%であり、5か月が最も多かったが、特に問題点は指摘されていない。そこで、現在、改定「離乳の基本」で推奨されている5か月頃を6か月頃とする場合には、5か月頃より6か月頃が好ましいという科学的根拠を示し、日本の現状を加味した議論がなされた上で変更する必要があると考える。

4. 保育所における離乳相談の回答者

保育所において、保護者からの離乳相談への主な回答者は、普段から子どもや保護者にかかわることの多い保育士が栄養士より多かった。また、調理師、園長も数は少ないが回答者になっていた。これは保育と栄養・給食担当の専門性の異なる立場から指導が行われていることを示す。そこで、それぞれの職種により指導内容に矛盾が起きないように、他職種と連携をとることが重要である。

5. 保育所の食物アレルギー児への対応

アレルギー発症予防のために、成長・発育が旺盛な乳幼児期において、専門医の判断なしに食品の制限を行うことは弊害がある。また、本人とその家族のストレスも深刻なものとなる。近年は、アレルギーについての関心が高まり、様々な情報が氾濫している。しかし、その中から母親が、科学的根拠のある信頼性の高いものを選択することは、困難を伴うことが多く、母親が自己判断で食物を制限したりすることも多い。古田ら⁸⁾は保育園児のアトピー性皮膚炎と食物制限に関する調査において、食物制限を受けていた園児の約25%は、医師の診断を全く受けていないと報告している。また、水野ら⁹⁾も、保

育所給食に関する調査の中で、0歳児では、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーに対する対応を行う場合の判断基準は、保護者の要望による者が31.1%で、加齢と共にこの割合は増加したという結果を得ている。また、田中ら¹⁰⁾の研究においては、「保護者の申し出」のみは栄養士配置施設において、42.9%であることが報告されている。さらに、本研究においても、先行研究結果と比較すると少ないものの、「保護者からの要望」は30.0%であった。

従来から、アレルギー疾患に関しては専門医の診断を受けるように指導がなされてきた。しかし、依然その指導が徹底されていないことがこれらの結果から明らかにされた。そこで、離乳指導にあたる者は、アレルギー疾患に対しては必ず専門医の診断を受けることを、さらに徹底することが重要であると考えられる。

6. 0歳児数の少ない保育所の配慮すべき点

0歳児数5人以下の保育所は、6人以上に比べて差がみられた項目を以下に列挙する。離乳開始時期を決めていない割合が多い、離乳の進め方の目安に管理栄養士の判断を仰ぐ割合が少ない、離乳期に区分を設けていない割合が多い、離乳食の献立は市区町村で作成されたものを使用する割合が少ない、離乳食の献立は1~2歳または3~5歳児用を適宜取り分ける割合が多い、離乳食の調理は離乳食専用調理することが少なく、ほとんど1~2歳または3~5歳児食を利用する割合が多い、改定「離乳の基本」に基づいた離乳食指導をしている割合が少ない、食物アレルギーの子どもへの除去食などの対応のないことが多い、除去食などの対応に医師の診断書、証明書を判断基準に使うことが少ない、食物アレルギーの子どもへの離乳食は栄養量まで考えて対応することは少ない、である。保育所における食事の供与は、週末を除く毎日のことであり、上記のような基準がない、あるいは不都合を改善しないままに離乳食が調整され、離乳が進められていることは、子どもの成長・発達に問題が大きい。そこで、0歳児数の少ない保育所においては、市区町村の行政栄養士、保育所間の栄養士と連携をとり、子どもの健康づくりの基本である栄養管理に十分に配慮することが望まれる。

7. 改訂「離乳の基本」について

改訂「離乳の基本」に基づいた離乳指導をしている市区町村の保健センターは97.0%と多く、保育所は63.7%であり、特に0歳児が5人以下の保育所は約半数が、改訂「離乳の基本」に基づいた指導はしていなかった。改訂「離乳の基本」は文字通り離乳指導の基本であるために、保育所の離乳指導は、改訂「離乳の基本」に基づいた実施することが重要であると考えられる。

改訂「離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安を利用しているのは、保健センターが保育所に比べて多

いために、その利用上、不便な点として「調理形態を詳しく示してほしい」「食品の開始時期を詳しく知りたい(例えば卵など)」「アレルギーについて詳しく知りたい」という具体的な項目を多くあげていた。

しかし、新たに策定を予定している「授乳・離乳の支援ガイド」は、個々の食品、調理の具体例を多数盛り込むのではなく、あくまでも基本的な大枠を示すものとするのが適切であると考え。具体的な食品、調理例、食物アレルギーについての対応などは、「授乳・離乳の支援ガイド」とは別に作成し、個々のニーズにより、組み合わせが可能な教材としていくことが、指導者や子どもの養育者にとって利用しやすいと思われる。

8. 離乳期の子どもの保護者への生活指導

離乳食の食べ方について、市区町村保健センター、保育所共に「食べる量にムラがある」、「食べる量が少ない」、「食べる種類が偏っている」、「食べるのを嫌がる」と感じる者が多かった。乳幼児も大人と同様に、その日の体調、機嫌、天候などにより食欲が変化するので、毎日、あるいは毎食一定の食欲、食事量でないことをあまり心配する必要はないと考える。しかし、離乳食を「食べる時間が定まらない」と回答した者も多く、この問題を抱える子どもが、離乳食の量の多少やムラ、ならびに種類の偏りに問題を同時に抱えているのであれば、これは問題であると考え。なぜならば、離乳食を「食べる時間が定まらない」ことは、食事時間の他にも、起床時間、就寝時間なども含めた生活全体のリズムが不規則であることが想像されるからである。従って、離乳の進め方の指導は、具体的な離乳食調理に関する教育も必要であるが、それだけにとどまらず、離乳食を1日の生活リズムの中に、正しく位置づける指導が望まれる。そのためには、家族の生活リズムを整えることが重要である。

離乳指導者にとって、出生順位は離乳指導上の問題の間接的な要因であると考え。しかし、本研究は母親の離乳の問題を明らかにすることを目的としたために、出生順位を区別しての調査は実施していない。今後、離乳の問題の背後にある要因を明確にするために、離乳期の子どもへの保護者に対して、出生順位などを考慮した調査を実施する必要がある。

9. ベビーフードの利用

市区町村の保健センターの離乳期の子どもの養育者は、離乳食を作る時間的余裕があるので、ベビーフードの利用頻度が少ない。しかし、「離乳食作りが苦痛・面倒」、「離乳食を考えるのが苦痛・面倒」との回答が多く、母親が離乳食を負担に思っていると感じる離乳指導者が保育所に比べて多く存在する。一方、保育所においては、「離乳食を作る時間がない」、「市販のベビーフードがあって助かっている」が保健センターに比べて多いが、「離乳食作りが苦痛・面倒」、「離乳食を考えるのが苦痛・面

倒」は、保健センターよりも少ない。そこで、離乳食を考えたり、作ったりすることを負担に感じている者に対しては、ベビーフードに関して適正な理解を促し、ベビーフードを適宜利用することにより、育児を楽しむ余裕がもてるような指導を行うことが望まれる。

V. 結論

新たな時代に対応した授乳・離乳の新たなガイドライン策定のための基礎的資料を得ることを目的に、常勤栄養士が配置されている市区町村保健センター、ならびに0歳児保育を実施し、栄養士の配置されている認可保育所の離乳指導担当者に対して、離乳指導に関する調査を行った。有効回答票(保健センター640票、保育所446票)について分析した結果は、以下のとおりである。

1. 市区町村保健センターにおいては、離乳集団指導は「乳幼児健診と合わせて実施している」のは「乳幼児健診とは別に実施」より少なかった。離乳指導の実施形態で、離乳食の実習を取り入れているところは全体の約1/3と少なかった。基本的な調理技術の不足している者が増加していることから、実習の必要性を感じる。離乳個別指導の実施率は高く、乳幼児健診時、電話相談、離乳集団指導時、個別相談日に実施されていた。
2. 保育所の「自園で作る完全給食」は離乳食96.2%、離乳食以外78.7%、「外部委託の完全給食」は離乳食3.4%、離乳食以外39.2%であった。
3. 保育所の保護者からの離乳相談への回答は、保育と栄養・給食担当の専門性の異なる職種による指導が行われていた。そこで、それぞれの職種により指導内容に矛盾が起きないように、他職種と連携をとることが重要である。
4. 保育所の牛乳の使用開始は「12~16か月」86.0%、「9~11か月」6.2%であり、「使用していない」6.2%であった。フォローアップミルクは「使用している」53.6%、「使用していない」35.8%、「特に決めていない」10.6%であり、0歳児数により使用状況については有意な差があった。
5. 保育所の離乳開始の目安の月齢は5か月69.6%、6か月15.2%、4か月7.1%であった。離乳開始の目安は「月齢」68.6%、「体重などの発育状況」47.8%、「保護者からの要望」46.2%、「保育士の判断」39.9%、「栄養士の判断」20.0%であった。
6. 保育所の離乳食献立は、「栄養基準に基づき自保育所で作成」28.9%、「基準はないが、経験に基づき自保育所で作成」26.0%、「市区町村で作成されたものを使用」21.1%、「1~2歳、3~5歳児食を適宜取り分ける」17.9%であった。0歳児数が少ないほど、「1~2歳、3~5歳児食を適宜取り分ける」が多かった。
8. 保育所の食物アレルギーの子どもへの除去食など「対

応している」は93.3%であった。対応の判断基準は「医師の診断書・証明書」75.6%、「保護者の要望」30.0%、「医師の判断(書類なし)」13.5%であった。0歳児数が少ないほど、「医師の診断書・証明書」が少なかった。食物アレルギーの子どもの離乳食への対応は、「対応しているが栄養量までは配慮できない」51.2%、「栄養量まで考えて対応」27.8%であり、0歳児数により対応方法については有意な差があった。

9. 改訂「離乳の基本」に基づいた離乳指導をしているのは、保健センター97.0%、保育所63.7%、改訂「離乳の基本」<付表>離乳食の進め方の目安を利用しているのは、保健センター88.2%、保育所74.1%であった。
10. 離乳期の悩みとして「食べる時間が定まらない」と生活リズムの乱れを想像させるものがあり、それが「食べる量にムラがある」「食べる量が少ない」「食べる種類が偏る」の一因と考えられる。

離乳指導は、単なる離乳の進め方や離乳食の調理指導に終わらせてはならない。食育の視点を踏まえ、乳汁以外の食物を初めて味わう乳児が、食べる楽しみと食事のおいしさを感じとれる働きかけが望まれる。

そのためには、子どもの養育者自らの取り組みは勿論のこと、栄養士、保育士、さらには医療スタッフが連携して、離乳期以降も子どもを中心に据えて長期的な食育支援を行うことが重要である。

謝辞

稿を終えるにあたり、本調査にご協力をいただきました市区町村保健センター、ならびに保育所の離乳指導担当者に心より感謝申し上げます。

文献

1. 平成16年度版全国市町村保健センター要覧、全国保健センター連合会、東京、2005.
2. 中村敬、乳幼児健診システムに関する全国実態調査、平成17年度厚生労働科学研究補助金(子ども家庭研究総合事業)分担研究報告書、主任研究者 高野陽、4-64、2006.
3. 堤ちはる、高野陽、水野清子、竹内恵子、三橋扶佐子：母親学級における栄養教育に関する研究、日本子ども家庭総合研究所紀要、第39集、185-195、(平成14年度)、2003.
4. 堤ちはる、三橋扶佐子、瀧本秀美、石村由利子、三枝きよみ：離乳期の子どもをもつ母親への離乳に関する調査研究、平成17年度こども未来財団児童関連サービス事業、授乳・離乳の新たなガイドライン策定のための枠組みに関する研究、分担研究報告書、主任研究者 堤ちはる、203-230、2006.
5. 西村輝子、遠藤幸子、松江市における生後3ヵ月から17ヵ月までの乳幼児の食事について(第1報)ー栄養素摂取量および食品摂取量ー. 小児保健研究、43(1)、57-65、1984.
6. 土取洋子. 乳児の授乳方法と離乳期の栄養に関する調査研究ー3歳児の母親を対象としてー. 母性衛生、45(4)、445-453、2005.
7. WHO, UNICEF. Global Strategy for Infant and Young Child Feeding. WS 120 2003.
8. 古田真司、古田加代子、深田朝美、他3名. 保育園児のアトピー性皮膚炎と食物制限に関する調査、小児保健研究、52巻5号、543-547、1993.
9. 水野清子、菊池ふみ子、加藤忠明、平山宗宏、中原澄男. 2. 保育所給食に関する研究. 日本総合愛育研究所紀要、第31集、19-26、1995.
10. 田中眞智子、水野清子、石川文子、自所(園)調理法式の保育所における給食の在り方に関する調査研究、報告2、アトピー性皮膚炎等障害児への食事の対応状況に関する分析、平成13年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合事業)主任研究者 水野清子、32-37、2002.

表1-1 回答者の性別

	市町村数	有効パーセント
男	8	1.3
女	630	98.7
無回答	2	

表1-2 回答者の年齢区分

	市町村数	有効パーセント
20歳代	126	20.0
30歳代	221	35.1
40歳代	151	24.0
50歳代	127	20.2
60歳代以上	4	0.6
無回答	11	

表1-3 回答者の職種

	市町村数	有効パーセント
医師	1	0.2
保健師	70	11.2
助産師	1	0.2
看護師	1	0.2
(管理)栄養士	553	88.2
事務職	1	0.2
無回答	13	

表1-4 離乳集団指導

	市町村数	有効パーセント
乳幼児健診と合わせて実施している	117	18.4
乳幼児健診とは別に実施している	367	57.7
上記の方法を併用	110	17.3
実施していない	42	6.6
無回答	4	

表1-5 離乳講習会(集団指導)の実施形態(複数回答)

	市町村数	パーセント
講義、離乳食作りの実習、試食	217	33.9
講義、離乳食作り見学、試食(参加者の離乳食作りの実習なし)	177	27.7
講義、試食(離乳食作りの実習なし、見学なし)	213	33.3
講義のみ	84	13.1
離乳食講習会(集団指導)は実施していない	34	5.3

表1-6 個別指導

	市町村数	パーセント
実施している	622	97.2
実施していない	18	2.8

表1-7 離乳の個別相談、指導の行われている機会(複数回答)

	市町村数	パーセント
乳幼児健診	532	83.1
離乳食講習会(集団指導)	462	72.2
個別相談日が設定されている	267	41.7
電話相談	511	79.8
特に決まっていない	58	9.1
離乳講習会(個別指導)は実施していない	3	0.5
その他	152	23.8

表1-8 離乳の個別相談、指導の対象者(複数回答)

	市町村数	パーセント
乳幼児健診等の参加者	496	77.5
希望者のみ	396	61.9
離乳指導の必要性の認められる人	450	70.3
実施していない	5	0.8
その他	48	7.5

表1-9 離乳開始時期についての質問や相談

	市町村数	パーセント	有効パーセント
離乳開始時期がわからない	359	56.1	56.6
特になし	187	29.2	29.5
離乳開始時期が遅すぎた	38	5.9	6.0
離乳開始時期が早すぎた	12	1.9	1.9
その他	38	5.9	6.0
合計	634	99.1	100.0
無回答	6	0.9	

表1-10 離乳食の食べ方についての質問や相談

	市町村数	パーセント	有効パーセント
食べる量が少ない	237	37.0	37.0
食べる量にムラがある	149	23.3	23.3
食べるのを嫌がる	88	13.8	13.8
食べる種類が偏っている	77	12.0	12.0
その他	43	6.7	6.7
食べる量が多い	37	5.8	5.8
特になし	5	0.8	0.8
市販のベビーフードばかりになる	4	0.6	0.6
合計	640	100.0	100.0

表1-11 離乳食を食べる時間、時刻についての質問や相談

	市町村数	パーセント	有効パーセント
食べるのに時間がかかる	227	35.5	35.6
食べる時間帯が定まらない	198	30.9	31.1
特になし	133	20.8	20.9
その他	41	6.4	6.4
食べさせる時刻が遅くなりがち	38	5.9	6.0
合計	637	99.5	100.0
無回答	3	0.5	

表1-12 離乳食全般についての質問や相談

	市町村数	パーセント	有効パーセント
食べる適量がわからない	293	45.8	45.9
離乳の進め方がわからない	244	38.1	38.2
離乳食の作り方がわからない	43	6.7	6.7
食べさせてよいものがわからない	29	4.5	4.5
乳汁と離乳食のバランスがわからない	12	1.9	1.9
その他	11	1.7	1.7
特になし	4	0.6	0.6
何時頃食べさせたらよいかわからない	2	0.3	0.3
合計	638	99.7	100.0
無回答	2	0.3	

表1-15 「改定 離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安の利用

	市町村数	パーセント	有効パーセント
利用している	559	87.3	88.2
利用していない	75	11.7	11.8
合計	634	99.1	100.0
無回答	6	0.9	

表1-16 「改定 離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安の利用上、不便の有無

	市町村数	パーセント	有効パーセント
不便を感じる	243	38.0	39.4
不便は感じない	289	45.2	46.8
利用しないのでわからない	33	5.2	5.3
その他	52	8.1	8.4
合計	617	96.4	100.0
無回答	23	3.6	

表1-13 離乳指導者が感じる保護者の離乳食についての思い

	市町村数	パーセント	有効パーセント
離乳食作りが苦痛・面倒	196	30.6	30.7
離乳食献立を考えるのが苦痛・面倒	138	21.6	21.6
アレルギーについて心配	88	13.8	13.8
育児書のようにはいかない	66	10.3	10.3
離乳食を食べさせるのは楽しい	43	6.7	6.7
離乳食を作る時間がない	23	3.6	3.6
市販のベビーフードがあって助かっている	20	3.1	3.1
指導されるようにはいかない	19	3.0	3.0
離乳食を食べさせるのは苦痛・面倒	14	2.2	2.2
その他	14	2.2	2.2
離乳食作りは楽しい	13	2.0	2.0
特に思っていると感じることはない	5	0.8	0.8
合計	639	99.8	100.0
無回答	1	0.2	

表1-17 「改定 離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安の利用上、不便な点

	市町村数	パーセント
初期、中期などの区分をもっと細かくしてほしい	57	8.9
具体的な食品を多く示してほしい	281	43.9
調理形態について細かく示してほしい	213	33.3
食品の開始時期を詳しく知りたい(例えば卵など)	238	37.2
アレルギーについて詳しく示してほしい	266	41.6
除去食について詳しく示してほしい	115	18.0
利用しないのでわからない	21	3.3
特に感じない	79	12.3

表1-14 「改定 離乳の基本」にそった離乳指導の有無

	市町村数	パーセント	有効パーセント
している	616	96.3	97.0
していない	19	3.0	3.0
合計	635	99.2	100.0
無回答	5	0.8	

表2-1 回答者の性別

	施設数	パーセント	有効パーセント
男	3	0.7	0.7
女	441	98.9	99.3
合計	444	99.6	100.0
無回答	2	0.4	

表2-6 0歳児の受入時期

	施設数	パーセント	有効パーセント
2か月未満	60	13.5	13.8
2～4か月未満	211	47.3	48.6
4～6か月未満	83	18.6	19.1
6～8か月未満	75	16.8	17.3
8か月以上	3	0.7	0.7
受け入れていない	2	0.4	0.5
合計	434	97.3	100.0
無回答	12	2.7	

	施設数	パーセント	有効パーセント
20歳代	179	40.1	40.8
30歳代	89	20.0	20.3
40歳代	88	19.7	20.0
50歳代	71	15.9	16.2
60歳代以上	12	2.7	2.7
合計	439	98.4	100.0
無回答	7	1.6	

表2-7 0歳児の受入人数

	施設数	パーセント	有効パーセント
1～5人	68	15.2	15.9
6～10人	149	33.4	34.9
11人以上	210	47.1	49.2
合計	427	95.7	100.0
無回答	19	4.3	

表2-3 回答者の職種

	施設数	パーセント	有効パーセント
理事長	1	0.2	0.2
園長	35	7.8	8.2
副園長	4	0.9	0.9
主任保育士	20	4.5	4.7
保育士	19	4.3	4.4
(管理)栄養士	325	72.9	75.9
調理師	12	2.7	2.8
調理員・調理技師	9	2.0	2.1
事務職	2	0.4	0.5
その他	1	0.2	0.2
合計	428	96.0	100.0
無回答	18	4.0	

表2-8 食事に関する職員数

	施設数	配置率	最小値	最大値	平均値	標準偏差
(管理)栄養士常勤	400	89.7	1	5	1.5	0.8
(管理)栄養士非常勤	61	13.7	1	4	1.1	0.5
調理師常勤	247	55.4	1	4	1.4	0.7
調理師非常勤	92	20.6	1	3	1.3	0.5
調理員・調理技師常勤	123	27.6	1	14	1.5	1.3
調理員・調理技師非常勤	159	35.7	1	7	1.7	1.1

表2-4 設置主体

	施設数	パーセント	有効パーセント
公立	85	19.1	19.3
社会福祉法人	342	76.7	77.6
その他の法人	12	2.7	2.7
個人	2	0.4	0.5
合計	441	98.9	100.0
無回答	5	1.1	

表2-9 食事(離乳食を除く)の提供(複数回答)

	施設数	パーセント
自園で作る完全給食	351	78.7
外部委託による完全給食	175	39.2
外部委託であるが、間食は自園で作	15	3.4
離乳食は提供していない	0	0.0
その他	4	0.9

表2-5 入所児数

	施設数	パーセント	有効パーセント
～59人	23	5.2	5.2
60～79人	71	15.9	16.0
80～99人	68	15.2	15.3
100～119人	67	15.0	15.1
120～139人	80	17.9	18.0
140人～	135	30.3	30.4
合計	444	99.6	100.0
無回答	2	0.4	

表2-10 離乳食の提供

	施設数	パーセント
自園で作る完全給食	429	96.2
外部委託による完全給食	15	3.4
外部委託であるが、間食は自園で作	0	0.0
離乳食は提供していない	0	0.0
その他	2	0.4

表2-11 離乳食提供園児数

	施設数	効回答率	最小値	最大値	平均値	標準偏差
離乳食提供園児数	356	79.8	1	32	5.8	4.9

表2-12 保護者からの離乳相談への主な回答者（複数回答）

	施設数	パーセント
自保育所の(管理)栄養士	252	56.5
非常勤の(管理)栄養士	8	1.8
行政の(管理)栄養士	13	2.9
調理師	36	8.1
調理員・調理技師	7	1.6
保育士	287	64.3
看護師	22	4.9
園長	54	12.1
その他	8	1.8

表2-13 牛乳使用開始期

	施設数	パーセント	有効パーセント
6か月未満	3	0.7	0.7
6～8か月	4	0.9	0.9
9～11か月	27	6.1	6.2
12～16か月	375	84.1	86.0
使用していない	27	6.1	6.2
合計	436	97.8	100.0
無回答	10	2.2	

表2-14 フォローアップミルクの使用

	施設数	パーセント	有効パーセント
使用している	232	52.0	53.6
使用していない	155	34.8	35.8
特に決めていない	46	10.3	10.6
合計	433	97.1	100.0
無回答	13	2.9	

表2-15 離乳の開始時期

	施設数	パーセント
決めている	212	47.5
決めていない	79	17.7
入所前に開始している	76	17.0
離乳期の子どもはいない	4	0.9
その他	91	20.4

表2-16 離乳開始の目安

	施設数	パーセント
月齢	306	68.6
体重などの発育状況	213	47.8
食べ物を欲しがるように なった	190	42.6
保護者からの要望	206	46.2
保育所囁託医の指示	7	1.6
保育所看護師の指示	16	3.6
(管理)栄養士の判断	89	20.0
保育士の判断	178	39.9
なんとなく	0	0.0
入所前に開始している	141	31.6
離乳期の子どもはいない	3	0.7
その他	38	8.5

表2-17 離乳開始の目安にしている月齢

	施設数	パーセント	有効パーセント
2か月	1	0.2	0.3
3か月	6	1.3	2.0
4か月	21	4.7	7.1
5か月	206	46.2	69.6
5.5か月	3	0.7	1.0
5.6か月	1	0.2	0.3
6か月	45	10.1	15.2
7か月	7	1.6	2.4
8か月	2	0.4	0.7
9か月	1	0.2	0.3
11か月	2	0.4	0.7
12か月	1	0.2	0.3
合計	296	66.4	100.0
目安にしていない	73	16.4	
無回答	77	17.3	

表2-18 離乳の進め方の目安

	施設数	パーセント
月齢	373	83.6
体重などの発育状況	238	53.4
食欲	249	55.8
咀嚼、嚥下の状態	345	77.4
保護者からの要望	177	39.7
保育所囁託医の指示	4	0.9
保育所看護師の指示	22	4.9
(管理)栄養士の判断	136	30.5
保育士の判断	241	54.0
なんとなく	0	0.0
離乳期の子どもはいない	3	0.7
その他	20	4.5

表2-19 離乳期の区分

	施設数	パーセント	有効パーセント
1か月単位	15	3.4	3.5
2区分	8	1.8	1.9
3区分	214	48.0	49.7
4区分	106	23.8	24.6
区分なし	18	4.0	4.2
その他	70	15.7	16.2
合計	431	96.6	100.0
無回答	15	3.4	

表2-20 幼児食移行月齢

	施設数	パーセント	有効パーセント
10か月	2	0.4	0.5
11か月	14	3.1	3.3
12か月	169	37.9	40.2
13か月	66	14.8	15.7
14か月	23	5.2	5.5
15か月	97	21.7	23.1
16か月	21	4.7	5.0
17か月	4	0.9	1.0
18か月	21	4.7	5.0
19か月	2	0.4	0.5
23か月	1	0.2	0.2
合計	420	94.2	100.0
無回答	26	5.8	

表2-21 離乳食の献立

	施設数	パーセント
栄養基準に基づいて自保育所で献立を作成	129	28.9
基準はないが、経験に基づいて自保育所で献立を作成	116	26.0
市区町村で作成されたものを使用	94	21.1
他の保育所との共同献立	10	2.2
1～2歳または3～5歳児食を適宜取り分ける	80	17.9
特に献立表はない	30	6.7
その他	21	4.7

表2-22 離乳食の調理

	施設数	パーセント
離乳食専用に調理	316	70.9
1～2歳、3～5歳児食から一部転用	259	58.1
ほとんど1～2歳、3～5歳児食を利用	70	15.7
市販のベビーフードをたまに利用	27	6.1
市販のベビーフードを週に1～2回利用	3	0.7
市販のベビーフードを週に3～4回利用	1	0.2
市販のベビーフードをほとんど毎日利用	1	0.2
その他	6	1.3

表2-23 離乳開始時期についての質問や相談

	施設数	パーセント	有効パーセント
離乳開始時期がわからない	215	48.2	50.9
特になし	154	34.5	36.5
離乳開始時期が遅すぎた	28	6.3	6.6
離乳開始時期が早すぎた	4	0.9	0.9
その他	21	4.7	5.0
合計	422	94.6	100.0
無回答	24	5.4	

表2-24 子どもの離乳食の食べ方についての質問や相談

	施設数	パーセント	有効パーセント
食べる量にムラがある	98	22.0	22.8
食べる量が少ない	88	19.7	20.5
食べる種類が偏っている	70	15.7	16.3
食べるのを嫌がる	53	11.9	12.3
特になし	45	10.1	10.5
食べる量が多い	41	9.2	9.5
市販のベビーフードばかりになる	15	3.4	3.5
市販のベビーフードを嫌がる	1	0.2	0.2
その他	19	4.3	4.4
合計	430	96.4	100.0
無回答	16	3.6	

表2-25 離乳食を食べる時間、時刻についての質問や相談

	施設数	パーセント	有効パーセント
離乳食を食べる時間、時刻については特になし	171	38.3	41.0
食べるのに時間がかかる	126	28.3	30.2
食べさせる時刻が遅くなりがち	61	13.7	14.6
食べる時間帯が定まらない	43	9.6	10.3
その他	16	3.6	3.8
合計	417	93.5	100.0
無回答	29	6.5	

表2-26 離乳食全般についての質問や相談

	施設数	パーセント	有効パーセント
離乳の進め方がわからない	148	33.2	34.4
食べる適量がわからない	129	28.9	30.0
離乳食の作り方がわからない	53	11.9	12.3
わからないことについては特になし	42	9.4	9.8
食べさせてよいものがわからない	30	6.7	7.0
乳汁と離乳食のバランスがわからない	21	4.7	4.9
何時頃食べさせたらよいかわからない	1	0.2	0.2
離乳食について相談する人や場所がわからない	1	0.2	0.2
その他	5	1.1	1.2
合計	430	96.4	100.0
無回答	16	3.6	

表2-27 離乳指導者が感じる保護者の離乳食についての思い

	施設数	パーセント	有効パーセント
離乳食を作る時間がない	107	24.0	24.4
離乳食作りが苦痛・面倒	94	21.1	21.5
市販のベビーフードがあって助かっている	62	13.9	14.2
離乳食献立を考えるのが苦痛・面倒	52	11.7	11.9
アレルギーについて心配	51	11.4	11.6
育児書のようにはいかない	21	4.7	4.8
離乳食を食べさせるのは楽しい	15	3.4	3.4
特に思っていると感じることはない	11	2.5	2.5
指導されるようにはいかない	9	2.0	2.1
離乳食を食べさせるのが苦痛・面倒	8	1.8	1.8
離乳食作りは楽しい	3	0.7	0.7
その他	5	1.1	1.1
合計	438	98.2	100.0
無回答	8	1.8	

表2-28 「改定 離乳の基本」にそった離乳指導の有無

	施設数	パーセント	有効パーセント
している	275	61.7	63.7
していない	157	35.2	36.3
合計	432	96.9	100.0
無回答	14	3.1	

表2-29 「改定 離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安の利用

	施設数	パーセント	有効パーセント
利用している	321	72.0	74.1
利用していない	112	25.1	25.9
合計	433	97.1	100.0
無回答	13	2.9	

表2-30 「改定 離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安の利用上、不便の有無

	施設数	パーセント	有効パーセント
不便を感じる	84	18.8	20.1
不便は感じない	225	50.4	54.0
利用しないのでわからない	86	19.3	20.6
その他	22	4.9	5.3
合計	417	93.5	100.0
無回答	29	6.5	

表2-31 「改定 離乳の基本」の<付表>離乳食の進め方の目安の利用上、不便な点

	施設数	パーセント
初期、中期などの区分をもっと細かくしてほしい	27	6.1
具体的な食品を多く示してほしい	187	41.9
調理形態について細かく示してほしい	85	19.1
食品の開始時期を詳しく知りたい(例えば卵など)	120	26.9
アレルギーについて詳しく示してほしい	146	32.7
除去食について詳しく示してほしい	105	23.5
利用しないのでわからない	56	12.6
特に感じない	53	11.9

表2-32 食物アレルギー児へ除去食などの対応

	施設数	パーセント
対応している	416	93.3
対応していない	2	0.4
該当する子どもがいない	18	4.0

表2-33 食物アレルギー児へ除去食などの対応をしている場合の判断基準

	施設数	パーセント
医師の診断書・証明書	337	75.6
医師の判断(書類なし)	60	13.5
保護者の要望	134	30.0
園医の判断	8	1.8
該当する子どもがいない	8	1.8
その他	8	1.8

表2-34 食物アレルギー児の離乳食の対応

	施設数	パーセント	有効パーセント
栄養量まで考えて ほとんど対応している	116	26.0	27.8
ほとんど対応しているが 栄養量までは配慮できない	214	48.0	51.2
できる時に対応している	18	4.0	4.3
該当する子どもがいない	63	14.1	15.1
その他	7	1.6	1.7
合計	418	93.7	100.0
無回答	28	6.3	

表2-35 フォローアップミルクの使用

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
使用している	35 (53.0)	71 (49.0)	111 (54.7)	217 (52.4)
使用していない	16 (24.2)	63 (43.4)	72 (35.5)	151 (36.5)
特に決めていない	15 (22.7)	11 (7.6)	20 (9.9)	46 (11.1)
合計	66 (100.0)	145 (100.0)	203 (100.0)	414 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-36 離乳の開始時期を決めている

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	23 (33.8)	72 (48.3)	108 (51.4)	203 (47.5)
なし	45 (66.2)	77 (51.7)	102 (48.6)	224 (52.5)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-37 離乳の開始時期 入所前に開始している

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	14 (20.6)	33 (22.1)	24 (11.4)	71 (16.6)
なし	54 (79.4)	116 (77.9)	186 (88.6)	356 (83.4)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-38 離乳開始の目安 食べ物を欲しがるようになった

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	19 (27.9)	70 (47.0)	97 (46.2)	186 (43.6)
なし	49 (72.1)	79 (53.0)	113 (53.8)	241 (56.4)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-39 離乳開始の目安 保護者からの要望

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	36 (52.9)	56 (37.6)	102 (48.6)	194 (45.4)
なし	32 (47.1)	93 (62.4)	108 (51.4)	233 (54.6)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-40 離乳開始の目安（管理）栄養士の判断

	「0歳児」の受入人数			合計
	1～5人	6～10人	11人以上	
あり	13 (19.1)	39 (26.2)	33 (15.7)	85 (19.9)
なし	55 (80.9)	110 (73.8)	177 (84.3)	342 (80.1)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p<0.05$

表2-41 離乳開始の目安 離乳期の子どもはいない

	「0歳児」の受入人数			合計
	1～5人	6～10人	11人以上	
あり	2 (2.9)	1 (0.7)	0 (0.0)	3 (0.7)
なし	66 (97.1)	148 (99.3)	210 (100.0)	424 (99.3)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p<0.05$

表2-42 離乳の進め方の目安 月齢

	「0歳児」の受入人数			合計
	1～5人	6～10人	11人以上	
あり	50 (73.5)	133 (89.3)	176 (83.8)	359 (84.1)
なし	18 (26.5)	16 (10.7)	34 (16.2)	68 (15.9)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p<0.05$

表2-43 離乳の進め方の目安 保育所囁託医の指示

	「0歳児」の受入人数			合計
	1～5人	6～10人	11人以上	
あり	0 (0.0)	4 (2.7)	0 (0.0)	4 (0.9)
なし	68 (100.0)	145 (97.3)	210 (100.0)	423 (99.1)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p<0.05$

表2-44 離乳の進め方の目安（管理）栄養士の判断

	「0歳児」の受入人数			合計
	1～5人	6～10人	11人以上	
あり	13 (19.1)	61 (40.9)	57 (27.1)	131 (30.7)
なし	55 (80.9)	88 (59.1)	153 (72.9)	296 (69.3)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p<0.05$

表2-45 離乳の進め方の目安 離乳期の子どもはいない

	「0歳児」の受入人数			合計
	1～5人	6～10人	11人以上	
あり	2 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.5)
なし	66 (97.1)	149 (100.0)	210 (100.0)	425 (99.5)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p<0.05$

表2-46 離乳期はいくつの区分に分けていますか

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
1か月単位	4 (6.5)	9 (6.1)	2 (1.0)	15 (3.6)
2区分	2 (3.2)	3 (2.0)	2 (1.0)	7 (1.7)
3区分	39 (62.9)	67 (45.6)	100 (48.8)	206 (49.8)
4区分	3 (4.8)	41 (27.9)	58 (28.3)	102 (24.6)
区分なし	10 (16.1)	2 (1.4)	5 (2.4)	17 (4.1)
その他	4 (6.5)	25 (17.0)	38 (18.5)	67 (16.2)
合計	62 (100.0)	147 (100.0)	205 (100.0)	414 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-47 離乳食の献立作成 市区町村で作成されたものを使用

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	6 (8.8)	41 (27.5)	43 (20.5)	90 (21.1)
なし	62 (91.2)	108 (72.5)	167 (79.5)	337 (78.9)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-48 離乳食の献立作成 1~2歳または3~5歳児食を適宜取り分ける

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	23 (33.8)	24 (16.1)	27 (12.9)	74 (17.3)
なし	45 (66.2)	125 (83.9)	183 (87.1)	353 (82.7)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-49 離乳食の調理 離乳食専用調理

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	29 (42.6)	103 (69.1)	172 (81.9)	304 (71.2)
なし	39 (57.4)	46 (30.9)	38 (18.1)	123 (28.8)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-50 離乳食の調理 ほとんど1~2歳、3~5歳児食を利用

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	19 (27.9)	25 (16.8)	24 (11.4)	68 (15.9)
なし	49 (72.1)	124 (83.2)	186 (88.6)	359 (84.1)
合計	68 (100.0)	149 (100.0)	210 (100.0)	427 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-51 「改定 離乳の基本」にそって離乳食指導をしているか

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
している	33 (51.6)	91 (62.8)	140 (68.6)	264 (63.9)
していない	31 (48.4)	54 (37.2)	64 (31.4)	149 (36.1)
合計	64 (100.0)	145 (100.0)	204 (100.0)	413 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-52 食物アレルギー児へ除去食などの対応

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	55 (87.3)	145 (98.0)	197 (97.0)	397 (95.9)
なし	8 (12.7)	3 (2.0)	6 (3.0)	17 (4.1)
合計	63 (100.0)	148 (100.0)	203 (100.0)	414 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-53 食物アレルギー児へ除去食などの対応をしている場合の判断基準 医師の診断書・証明書

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
あり	37 (60.7)	115 (77.7)	171 (85.1)	323 (78.8)
なし	24 (39.3)	33 (22.3)	30 (14.9)	87 (21.2)
合計	61 (100.0)	148 (100.0)	201 (100.0)	410 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

表2-54 食物アレルギー児へ離乳食の対応

	「0歳児」の受入人数			合計
	1~5人	6~10人	11人以上	
栄養量まで考えてほとんど対応している	12 (20.0)	35 (24.5)	63 (32.0)	110 (27.5)
ほとんど対応しているが栄養量までは配慮できない	24 (40.0)	83 (58.0)	100 (50.8)	207 (51.8)
できる時に対応している	4 (6.7)	9 (6.3)	4 (2.0)	17 (4.3)
該当する子どもがいない	20 (33.3)	14 (9.8)	25 (12.7)	59 (14.8)
その他	0 (0.0)	2 (1.4)	5 (2.5)	7 (1.8)
合計	60 (100.0)	143 (100.0)	197 (100.0)	400 (100.0)

χ^2 検定 $p < 0.05$

